学長式辞

「卒業時の自分」に向かって

佐々木 重人

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本学は、明治初期に米国で法律学と経済学を学んだ相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格が、日本の近代社会を支える次世代の人々を育てようと、1880年に創立した「専修学校」を前身としています。創立者の志を汲み「社会に対する報恩奉仕」を建学の精神とし、学風の「質実剛健」「誠実力行」には、自然体で心身を鍛えながら、誠実に人生を歩むという誓いが込められています。

その建学の精神を現代的にアレンジした21世紀ビジョン「社会知性の開発」（The Development of Socio-Intelligence）を教育目標として掲げています。「社会知性の開発」とは、専修大学で身につける知識や技能を自分だけのものとせず、社会、家族、組織、地域等の諸課題の解決のためにも活用するマインドを身につけることを意味します。そのため本学は、深い人間理解につながる教育、倫理観を重んじる教育、独創的発想を促す教育、地球的視野を持たせる教育を基本に据えています。

本学が今、特に注力している取り組みの第1は、「ソサエティ5・0」において活躍できる人材の育成です。ビッグデータの解析能力を習得するために「Siデータサイエンス教育プログラム」を全学部で展開しています。第2はキャンパスDXの推進です。AIによるデジタルオンライン窓口の設置を始め、個人別の学修活動の評価やプラン策定に関わるオンライン支援機能を順次充実させていく予定です。第3は「キャリア形成、就職、資格・採用試験対策」＝トリプル・サポートシステムの強化です。本学では難関国家試験対策講座を開講しており、目覚ましい成果をあげています。

本日、皆さんに強くお願いしたいことがあります。それは、卒業時にこうなっていたい自分をイメージし、その姿に重なり合うために今、何をしなければならないのかを考え、実行し続けてほしいということです。卒業時の自分自身を真のライバルと捉え、一心不乱に努力してほしいと思います。専修大学は、皆さん一人一人の目標実現と向き合い、全力でサポートします。

縁あって、皆さんが入学された専修大学が、これから生涯にわたる交流が続くであろう人々との出会いの場ともなりますことを祈念いたしております。（要旨）

理事長祝辞

失敗恐れず 繰り返し挑戦を

松木 健一

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご家族の皆様にも心からお喜びを申し上げます。目標を見失うことなく大学入学を目指して努力されてきた皆さんに、敬意を表するとともに、専修大学への入学を心から歓迎いたします。

本日は、皆さんが専修大学で学ぶ新たな一歩を踏み出すお祝いの日であり、これから専修大学の学生として学問の修練に励むという誓いの日でもあります。

学生生活で重要なことは、何を学ぶか、そして何に打ち込むかです。学んだ知識や経験を生かして、さまざまな課題解決に取り組んでいける力を養成することも大切です。目標を立て、将来像を描き、自らの能力を発掘する真剣な日々を送っていただきたいと思います。

専修大学の4人の創立者が志したように、皆さんも失敗を恐れず、自らが定めた目標と目的を達成するまで、何度でも繰り返し挑戦してください。

能力は、努力し続けることによって無限に広がります。自身が持つ可能性を信じ、勇気をもって目標に向かい、挑戦する姿勢を卒業するまで堅持し、実践してください。

本学では充実したカリキュラムをはじめ、図書館、情報科学センター、国際交流センターといった施設やキャリアデザインのための種々の支援プログラムなど、豊富な支援システムを用意しています。積極的に活用してください。

本学教職員は、全力で指導、助言、支援を続けていきます。臆せず、ひるまず、果敢に目標に向かって挑戦してください。皆さんが本学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」に必要な知力を兼ね備えた人材に成長し、卒業、または修了時に再びこの日本武道館において専修大学を巣立つその日を楽しみにしています。

専修大学は保護者の会である育友会や、卒業生の会である校友会からのご支援をいただき、オール専修で学生を育成し、教育・研究に取り組んできました。今後も引き続き、本学の運営にご理解を賜り、ご支援くださいますようお願い申し上げます。（要旨）

総長祝辞

将来への一歩 心して歩んで

日髙 義博

私も1966年、この日本武道館で入学式を迎えた専修大学の卒業生の一人です。宮崎県から27時間汽車に揺られて東京に出てきましたが、その間、自分の将来を考え、どう生きるべきかを考える時間があったように思います。今は何もかもスピーディーに動くため、その余裕が皆さんにはないかもしれません。しかし、今日この武道館から皆さんの将来の第一歩が始まることは確かです。心して歩んでいただきたいと思います。

大学は、どこに入ったかではなく、そこで何をしたかが重要です。偏差値はあまり役に立ちません。考える力や人間を理解する度量が将来の発展の基準になります。夢を実現するための方法や示唆、解決の糸口は、大学の至るところで見いだすことができます。

大学は何のために存在し、何のために教育を行うのかというのは大きな問題ですが、高等教育は社会の構造を支え、変革し、力を与えます。このことは時代が変わっても同じだと思います。

日本は明治維新後、ヨーロッパから諸々の制度を取り込みました。かつてヨーロッパの学問の中核は、神学、医学、法学、哲学でした。このうち哲学を除く三つの学問体系の出口には職業がありました。皆さんも将来の仕事を見据え、どういう勉強をすべきかを考えると、おのずと取得する知識が違ってきます。

私は検事になりたくて法学部に入学しましたが、大学2年の時に魂の覚醒があり、研究者の道を選びました。大学の付加価値である友達や恩師との絆、親や同僚の支えがあって、今日まで歩むことができています。

人間はその時、その場でしか生きられませんが、明日の生きざまを開くためにどうすべきかを考えると、自己変革ができます。過去は自分や将来を規制しません。ひとえに自己変革を図ることが、社会の発展であり、専修大学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」につながります。卒業後、皆さんがどれだけ社会に貢献するか、あるいは社会構造を支えて変革していくのか。そこが専修大学の評価点です。皆さんのこれからの変身と発展を祈念して祝辞とします。（要旨）

12氏に名誉教授称号

専修大学名誉教授称号記授与式が4月1日、生田キャンパスで行われ、次の12氏に称号記が授与された。

矢吹芳洋　元経済学部教授
小島晴洋　元法学部教授
関根純　元経営学部教授
※2024年9月20日ご逝去
増子惠一　元経営学部教授
渡邊展男　元経営学部教授
伊藤和憲　元商学部教授
内野明　元商学部教授
石鎚英也　元ネットワーク情報学部教授
馬場純子　元人間科学部教授
備前徹　元国際コミュニケーション学部教授
※2025年2月5日ご逝去
松原朗　元国際コミュニケーション学部教授
椙村寛道　元法科大学院教授

入学式 歓迎プログラム

混声合唱団カッパコーラス部

専修大学フィルハーモニー管弦楽団

全学応援団